

育成すべき資質・能力

鳴門教育大学大学院教授
村川雅弘

「育成すべき資質・能力」登場の背景

これからの子どもは将来の変化を予測することが困難な時代を生き抜かなければならない。さらに少子化が進む中、一人ひとりが持つ力を発揮し協働的に問題に立ち向かっていくことが求められる。これからの時代に必要とされる力とは何か、それらの力を確実に身に付け、一人ひとりが持つ可能性を最大限に伸ばすための学校教育はどうあるべきか。これらを検討するために「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会」が平成24年12月より開かれ、26年3月に論点整理を公表した。

資質・能力に関する提言や議論は急に降って湧いたわけではない。教育基本法改正（平成18年）や学校教育法の「学力の三要素」（平成19年）、平成8年中教審の「生きる力」、キャリア教育の「基礎的・汎用的能力」（平成23年）、内閣府の「人間力」（平成15年）など、既に議論され提言されてきた。「総合的な学習の時間」（平成10年）のねらいにも「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること」と明示されている。海外でも育成すべき人間像を巡っての論議が盛ん

で、PISA調査の理論的基盤である「キー・コンピテンシー」もその一つである。資質・能力検討会はこれらの学力に関する提言等の延長線上にあったと言える。

「育成すべき資質・能力」とは

資質・能力検討会では、教育目標・内容に関する一定の枠組みとして三視点を示した。一つは、教科等を横断的する資質・能力としての問題解決力や論理的思考力、コミュニケーション、チームワークといった「汎用的なスキル」および自己調整や内省・批判的思考などの「メタ認知」である。一つは、各教科等における教科特有の汎用的な資質・能力、「教科等の本質に関わるもの」である。一つは、教科等に固有の知識・個別スキルである。

教育課程企画特別部会では、この検討会の三視点を受け、育成すべき資質・能力を三つの柱で整理している。一つは、「何を知っているか、何ができるか」にかかわる各教科に関する個別の知識や技能（身体的技能や芸術表現技能を含む）である。相互に関連づけたり組み合わせたりすることによる知識・技能の着実な定着と社会の様々な場面での活用を重視している。一つは、「知っていること・できることをどう使うか」にかかわる問

題発見や協働的問題解決に必要な思考力・判断力・表現力である。一つは、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」にかかわる学びに向かう力や「メタ認知」、多様性を尊重する態度と互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、などの人間性である。

改訂に向け学校はどのように対応していくか

資質・能力育成を重視した指導要領改訂に向け円滑に移行していくために、学校はどのように対応していけばよいのか。現行下においてやるべきことを行うことが重要である。

一つは総合的な学習の充実である。企画特別部の論点整理で強調されている「社会に開かれた学び」「社会とのつながりを重視した教育課程」

の要は総合的な学習の時間である。小中高の発達段階に応じた地域の活性化や社会貢献にかかわる内容や活動を積極的に取り入れたい。

一つは言語活動の充実である。教科や道徳、総合を問わず、課題解決に向けて一人ひとりが責任を持って自己の考えを述べ、よりよい解に向けて主体的・協働的に学ぶことがアクティブ・ラーニングである。

ただし、学習活動や学習形態の改善に留めず、主体的・協働的かつ共感的な学びを通して「これから遭遇するかもしれない正解のない・答えが一つに定まらない諸課題に対して、一人ひとりがひるまず責任を持って自己の考えや思いを述べ、少しでもよりよい解を見出していくという考え方や生き方」を身に付けさせたいものである。まさに、このような考え方・生き方こそがこれから求められる資質・能力と言えよう。

資料● 国立教育政策研究所による「21世紀型能力」の提案



図は、基礎力が思考力を支え、思考力の向かう先を実践力がガイドすることを示すために三円で描いた。さらに、実践力が21世紀型能力に繋がることを示すために、円の最も上に位置づけた。同時に、この三円が重なることで、どのような授業でも、21世紀型能力という資質・能力を意識して行う必要があることを示した。

以上のように、「思考力」、「基礎力」、「実践力」から構成される21世紀型能力を育成することで、「21世紀を生き抜く力をもった市民」である日本人を育成し、自立、協働、創造を軸とした生涯学習社会を実現することを狙った。

(国立教育政策研究所教育課程研究センター「平成24年度プロジェクト研究調査研究報告書 社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則」より)